# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【片柳中学校】

| ① | 今年度の課題と学力向上策 | | |
|---|---|---|---|
| | 学習上・指導上の課題 | | 学力向上策【実施時期・頻度】 |
| 知識・技能 | <学習上の課題><br>・基礎的・基本的な知識・技能を問う問題にはある程度正答できるが、意味を深く理解はしておらず、問われ方が変わると正答率が低い。<br><指導上の課題><br>・基礎的知識や技能を、汎用的な概念として理解できるようになるための問題が十分に設定できていない。 | ⇒ | ・朝学習(数学)や、各教科での単元末テストを充実させる【単元ごとに実施】<br>・スタサプ等の活用を通して、家庭学習の習慣づけや、自由進度学習や個別最適な学びができるようにする【適宜】<br>・基礎的・基本的な知識・技能を、汎用的に生かせるような活用の場面を意識した問題を含めた授業を実施する【各単元ごと】 |
| 思考・判断・表現 | <学習上の課題><br>・文章を読み取り理解する力はあるが、正しい用語を用いて説明・表現する力に課題がある。<br><指導上の課題><br>・与えられた条件や情報を、意図に沿って活用したり表現したりする活動が少ない。 | ⇒ | ・教科等横断的な授業を通して、文章や資料、データ等を要約したり、物事を多面的に思考したりする学習活動を充実させる【各教科ごとに一回以上実施】<br>・生徒どうしで話し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、表現・説明する学習活動の充実させる【各単元ごと】 |

| ② | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) |
|---|---|
| 知識・技能 | 国語では「語彙の意味」に関する理解が定着しており、全国平均を上回った。数学では「関数」の領域において、グラフから情報を読み取る力が育っている。一方、数学全体では基本語句の理解が不十分である。特に「図形」の領域では空間認識や図形の性質に関する理解が弱く、すべての問題で全国平均を下回った。基礎概念の定着と、語句を理解して使うことを意識した指導が求められる。 |
| 思考・判断・表現 | 国語・数学ともに、思考・判断・表現の平均正答率において全国平均を下回った。特に国語の「書くこと」では、目的に応じた構成や根拠の明確にすること、また相手意識をもった表現に課題がある。記述式の問題では、自分の考えを分かりやすく伝える力が弱く、数学でも自分の考えの過程を言語化して説明する力に課題が見られる。全教科において、書く活動を通じて論理的思考力と表現力を育成する必要がある。 |

| ③ | 中間期報告 | | 中間期見直し |
|---|---|---|---|
| | 評価(※) | 学力向上策の実施状況 | 学力向上策【実施時期・頻度】 |
| 知識・技能 | B | 朝学習(数学)や単元末テストを継続的に実施できた。また、スタディサプリ等のICT教材を活用し、家庭学習の習慣づけや個別最適な学びの機会も提供できている。知識・技能の活用を意識した問題を取り入れた、汎用的な力の育成を図る授業の実施はさらなる充実が必要である。 | 変更なし |
| 思考・判断・表現 | B | 教科横断的な授業を通して、資料やデータの要約、多面的な思考を促す活動は一部実施できている。<br>しかし、生徒同士の話合いや意見交換等の活動において、自分の考えを広げたり深めたりすることや、物事の理由や自分の意見を相手に伝わりやすく文章で書くことに課題がみられる。 | 変更なし |

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)

| ④ | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察) |
|---|---|
| 知識・技能 | 全教科を通して、基礎的・基本的な知識の定着に課題が見られる。特に、数学ではデータの活用における用語の意味理解や、理科における化学反応式の記述といった、学習の土台となる基礎事項の正答率が市の平均を下回る結果となった。国語においても、文章から必要な情報を読み取り内容を解釈する設問の無解答率が市平均より高く、正確な知識を基に情報を整理する力に課題がある。一方で、社会の歴史的分野や数学の数と式の領域において、資料を活用して時代の特色を考察したり、得られた結果を事象に即して解釈したりする設問では良好な結果が得られた。単なる暗記に留まらず、知識を文脈の中でどう活用するかという視点での指導をさらに強化し、各教科の概念理解を深める必要がある。 |
| 思考・判断・表現 | 記述による表現力(国語:書くこと)や、未知の事象を数学的に考察する力、資料を基に多角的に考察する力(社会)において、市の平均を上回る成果が見られた。生活習慣アンケートの結果からも、「決めたことをやり遂げる」「夢に向かって工夫する」といった自己有用感や主体性が高く、これが記述問題への粘り強い取組や、自分の意見を発信しようとする姿勢に繋がっていると分析できる。しかし、国語の読解における解釈や、数学の関数領域など、論理的な思考のプロセスに課題が見られる。今後は、生徒の持ち前である意欲やコミュニケーション能力を活かしつつ、習得した知識を適切に活用して論理的に説明・表現する力の育成に重点を置く必要がある。 |

| ⑤ | 評価(※) | 学力向上策の実施状況 |
|---|---|---|
| 知識・技能 | B | 朝学習(数学)や単元テストの充実、スタディサプリ等の活用により、家庭学習の習慣化と個別最適な学びの推進に努めた。アンケート結果から、自ら学習の仕方を工夫しようとする態度の良い変化・成長が見られたものの、数学や理科の特定の領域において基礎事項の定着に課題がみられる。 |
| 思考・判断・表現 | B | 教科等横断的な授業や、生徒同士の話合い活動を通して、自分の考えを広げ、深める学習活動を重点的に実施した。その結果、記述問題への無解答率の低下や、社会・数学等の活用を問う設問で良い結果が得られた。生徒の粘り強く取り組む姿勢が、思考・表現の成果として表れている。 |

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)

| ⑥ | 次年度への課題と学力向上策 |
|---|---|
| 知識・技能 | 【課題】基礎的な知識や概念の理解が不足しているため、本来持っている思考・判断・表現の力を十分に発揮しきれない場面が見られる。特に数学の用語の意味理解や理科の化学反応式等の定着が課題である。<br>【向上策】単なる反復に留まらず、原理・原則を深く理解し、汎用的な概念として習得させるための授業改善を図る。ICT等を活用した習熟度別学習を積極的に実施し、家庭学習と連携した基礎・基本の徹底的な定着を目指す。 |
| 思考・判断・表現 | 【課題】文章や資料から情報を得て、内容を正確に解釈・説明する言語能力に課題が見られる。持ち前の対話意欲や社会貢献意識を、論理的な説明力や問題解決能力へとつなげていく必要がある。<br>【向上策】「書くこと」の成果を維持しつつ、未知の場面でも資料やデータを活用して、問題発見・解決能力を育成する学習活動を実施していく。全教職員で分析結果を共有し、「根拠を明確にしながら、自分の考えを相手にわかりやすく伝える」言語活動を一層充実させていく。 |